

【名称】 青丘社 ほっとライン
 【住所】 川崎区桜本 1-8-22 【電話】 044-270-6127
 【管理者】 湯浅利啓
 【居宅介護支援員】 湯浅利啓 姜玲玉 張順子 李契順
 【訪問介護・管理者】 張順子
 【サービス提供責任者（主任ヘルパー）】 金裕美、高橋明美、小林弘子
 【スタッフ】 常勤職員 12名（内 介護福祉士 9名）
 登録ヘルパー 19名（内 介護福祉士 6名）

【活動報告】 契約利用者の高齢化により、全体として重度・重篤化傾向が進み、入退院、入所等の大きな変化への対応場面が増えている。利用者・家族の多重化する困難（認知症、うつ、アルコール依存症、人格障がい、経済破綻、介護疲労等々）に試行錯誤を重ねながら一番身近で寄り添い、生活主体としてその人が望む選択を行えるよう支援している。医療依存度が高いまま在宅生活を余儀なくされる利用者は増加しており、直接的な援助だけでなく、医療機関、福祉施設、行政と連携しながら情報提供等を含む広範な支援を行ってきた。また、豊かさの内容が問われる生活援助が、住み慣れた地域で暮らし続ける上で重要な支えとなっている。とりわけ QOL の課題が短期間に集約的に現れるターミナル期の利用者では、関係機関、ご家族との連携を密に取りながら、尊厳のある最期を迎えられるよう支援を行ってきた（2017 年度中のご永眠者 9 名）。こうした利用者の多様なニーズに丁寧に応えるため、部署毎の研修により、知識・技術の研鑽に努めた。在日コリアン高齢者の生活課題に取り組んできた経験を全体化していく試みを行っている。レベル毎に会議を持ち、各部署内・部署間の連携を密にし、日々刻々変化する利用者の状態に対応できるよう体制作りを行っている。ほっとライン複数部署の事務所機能を集約することで、部署間連携を強め、マンパワーの効率化を図っている。

◆居宅介護支援 実績

利用者数推移（件数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
75	79	71	72	74	77	75	74	74	73	72	68

◆訪問介護 活動実績

<高齢者>

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用者数	要支	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	
	要支	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	
	要介	15	14	15	17	15	14	14	15	15	15	13	
	要介	9	9	8	9	9	11	10	11	12	10	12	
	要介	6	5	5	4	4	5	5	5	5	4	4	
	要介	6	7	7	7	6	5	5	5	5	5	4	2
	要介	4	3	3	3	4	3	3	2	2	2	4	2
	合計	44	42	41	43	41	41	40	41	42	40	40	39
提供時間	625.15	668.50	663.20	684.55	703.55	683.55	697.25	699.05	712.15	614.50	624.05	706.05	
派遣回数	472	493	500	496	496	463	472	462	470	411	423	481	

<障がい者>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
居宅介護	身体	利用者	3	3	3	3	3	4	3	4	4	4	4	
		派遣時間	12.0	12.0	16.5	10.0	12.0	28.0	34.5	32.5	48.5	29.0	30.5	32.5
	家事	利用者	3	4	2	4	3	5	4	5	5	5	6	6
		派遣時間	37.25	34.25	27.5	32.5	40.0	39.5	43.5	45.0	43.0	36.5	42.5	46.0
通院 介助	利用者	5	4	3	4	4	5	3	5	3	3	4	3	
	派遣時間	16.0	12.5	5.0	8.5	8.0	12.0	13.0	13.25	11.25	22.5	16.5	25.0	
重度訪問	利用者	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	
	派遣時間	20.5	18.5	16.5	3.0	3.0	0	6.0	9.0	9.0	8.0	8.0	10.0	
行動援護	利用者	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	
	派遣時間	98.0	89.75	83.0	97.0	87.0	101.5	83.5	94.0	113.0	106.0	78.0	125.5	
移動支援	利用者	7	7	9	6	8	9	9	8	8	7	7	7	

	派遣時間	130.0	125.5	136.5	114.25	156.5	155.5	161.0	126.25	113.0	98.0	88.0	109.0
あんしん サポート 通所・通学	利用者	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2
	派遣時間	10.5	9.5	10.0	10.5	10.5	10.5	13.0	12.0	12.0	1.0	9.0	18.5
	利用者	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0
	派遣回数	31	31	37	6	0	0	4	4	0	0	0	0

障がい者居宅介護のヘルパー派遣については、障がい児を養育している保護者にも障がいがあり、家庭生活の維持が困難な状況にある場合には、関係各所と連携を取りながら総合的な支援を行っている。

【名称】 青丘社 ほっとラインデイサービス（地域密着通所介護）

【定員】 10名

【住所】 川崎区大島 3-33-4 ベリタス原田 【電話】 050-3333-8196

【管理者】 小村麻有

【生活相談員】 小村麻有、田中佳代子

【スタッフ】 非常勤、月契約スタッフ 7名（機能訓練指導員 1名含む）

【活動報告】 日々変化する利用者の状態にすばやく対応出来る体制作りを強化し、ご家族の介護軽減、また、独居の方の支えとなる援助を心掛けた。ご利用者の人格を尊重し、一人ひとりのニーズに合わせた援助の実践、身体機能低下予防・日常生活訓練、回想法、カラオケ、レクリエーション、マッサージ等工夫している。傾向として、高い年齢層の施設入所がある一方、比較的低い年齢層の利用者が増え、短い時間の利用希望も増えてきた。隣接の認知症対応型通所介護との交流により、スタッフ・利用者共に活気づいて交流の輪が広がり、利用者のプログラム参加が積極的になり、病状改善、認知症予防防止に繋がっている。

安心できる居場所、家庭的で母国語でも会話出来る場所を提供し、豊かな生活が送れるように日々支援している。

好評の食事は、韓国料理だけではなく洋食も含め栄養バランスを考え、行事食や季節に合わせたメニュー作り、個々の嗜好も取り入れ提供出来る様に努力している。

また、ウリマダンとの交流を週1回水曜日の午前に行うことと一日温泉外出、クリスマス会などを一緒に行うことにより、新鮮な時間が作られるようになり生き生きと活動している。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	7時間以上	32	30	12	8	9	11	9	8	8	8	8	9	152
	5時間以上7時間未満	130	121	117	112	133	126	121	97	106	84	91	100	1338
	時間未満	15	20	30	27	30	24	21	28	41	28	22	24	310
総合事業	5時間未満	4	4	5	3	9	9	14	17	16	16	16	13	126

【名称】 青丘社 ほっとラインデイサービス（認知症対応型通所介護）

【定員】 11名

【住所】 川崎区大島 3-33-4 ベリタス原田 1階 【電話】 050-3333-8196

【管理者】 金成美

【生活相談員】 金成美、白崎真由美

【スタッフ】 非常勤、月契約スタッフ 6名（機能訓練指導員 2名含む）

【活動報告】 同一敷地内に地域密着通所介護と認知症対応型通所介護を隣接させることにより、提供サービスの効率化を図っている。うつによるひきこもりの方、認知症で多人数が苦手な方、孤独感の強い方など、様々な問題を抱えている人の立場に寄り沿って、その人らしく過ごせるように、利用時間をご本人の大切な時間として考え、毎日スタッフが工夫しながら様々なプログラムを一緒に行ってきた。また、最近の特徴として、アルコール依存症に伴って認知症状が重度化する利用者が増えており、担当ケアマネジャー、医療機関とも密に連携を取りながら、在宅生活を継続できるよう支援している。

これまでの取り組みを活かしつつ、更に認知症ケアに特化した実践を積み重ねている。特に赤ちゃんや子供と触れ合う時間を多く作った。赤ちゃんの「癒しパワー」で心からの笑顔があらわれ、表情が豊かになるなど、大きな効果が見られている。この取り組みからはスタッフも学ぶことができ、効果は双方向となっている。

制度の中でのサービスにこだわらず、自由な発想から自由な対応を目指している。

また、ウリマダンとの交流を週1回水曜日の午前に行うことと、一日温泉外出、クリスマス会などを一緒に行うことにより、双方の刺激となり新たな楽しみと認知症の予防に繋がっている。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介 護	①7時間以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	②5時間以上7時間未満	100	150	159	158	174	161	151	148	134	148	130	139	1752
	③5時間未満	22	29	38	11	14	17	15	24	27	18	33	29	277

【名称】川崎市障がい児タイムケアモデル事業

(田島支援タイムケアセンター)

【住所】①田島支援タイムケアセンター(月～土) 川崎区池上新町 1-1-3(田島支援学校桜校内)

*①使用出来ない時には、下の②、③の場所を使用した。

②渡田タイムケアセンター 川崎区渡田 1-15-5(渡田こども文化センター内)

③桜本コミュニティセンター 川崎区桜本 1-8-6

【電話】事務所(ほっとライン): 044-379-1037 専用携帯: 090-5443-4671

【実施日時】月曜日～土曜日

放課後～18:00、土曜日及び長期休暇中 10:00～18:00

【定員】1日 10名程度

【管理者】相 啓一

【スタッフ】常勤2、非常勤9

【活動報告】タイムケアモデル事業は、川崎市の委託を受けて障がいのある中・高生の放課後や夏休み等の長期休暇中の余暇活動の充実を図ることを目的に実施している。

2017年度末を以て当法人での事業は終了し、2018年度以降も引き続き利用を希望する利用者は日中一時支援「そら」に移行した。

利用者の理解と支援の質の向上のため、スタッフ間でのミーティングや情報共有、勉強会を積極的に行なった。

【タイムケア事業実績】

2017年度(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
登録人数	29	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	
実施日数	24	22	26	25	26	23	25	24	23	22	23	26	289
延べ利用者数	153	120	152	131	142	132	124	137	121	114	121	149	1596
送迎回数	263	191	244	209	223	222	212	228	207	197	210	251	2657

【名称】障がい児・者相談支援事業

【住所】川崎市川崎区桜本 1-8-2 2

【電話】事務所(ほっとライン): 044-379-1037

【実施日時】月曜日～金曜日

9:00～18:00

【管理者】姜玲玉

【スタッフ】相談支援専門員 常勤2(兼務)

【活動報告】2018年3月現在で契約者数は38名。内訳は障がい福祉サービスのサービス等利用計画を作成する等の計画相談支援18名、障がい児支援利用計画を作成する等の障害児相談支援20名となっている。

2017年度も法人各事業との連携を図ってきた。また、川崎市や川崎区の地域自立支援協議会に参加して、他事業、多職種の支援者となつながら、制度の改善や地域の課題解決にも取り組んできた。4月より初任の相談支援専門員が加わった。2名とも他事業と兼務しながら、出来る範囲で同行研修等を行い、人材育成に取り組んでいる。

【名称】日中一時支援「そら」

【住所】川崎市川崎区桜本 1-8-2 2

【電話】044-379-1037

【実施日時】未就学児 9:00～13:30

学齢児放課後～17:30(その後送り)

長期学校休業日 10～17:30

成人 15:30～18:00

【定員】 1日当たり 10名

【管理者】 中根正一

【スタッフ】 8名

【活動報告】 2016年度より、さくらもと保育園との連携により「交流保育」を活動の中心とした就学前の受け入れを開始した。保育園の一時保育利用児1名が年長となり、週3回そらを利用することで卒園に向けての成長を実感することができた。（※別表「幼児」参照）今後も希望者を募って交流保育を継続していきたい。学齢児の新規受け入れはしていないが一定数は継続して利用があった。（※別表「学齢児」参照）年度はタイムケア事業終了後の受け皿として受け入れる予定である。

18歳以上の成人については生活介護等、通所の事業所の終了時間が15:30と早いため、保護者の就労や疾病、本人の安定のためなど、夕方の活動の必要性が高い利用者を中心に引き続き受け入れを行った。（※別表「成人」参照）成人の夕方支援の課題解決に向けて活動してきた「障がい者の夕方支援を考える会」は活動を休止しているが、会の請願活動の成果として、川崎市は、生活介護（通所）終了後の施設において、日中一時預かり事業を実施できるよう制度改正を行った。まだ実績は見られないが、引き続き生活介護施設での事業実施の必要性を訴えるとともに、今後の動向によっては青丘社での夕方支援の役割や位置づけを見直す必要がある。

【2017年度事業実績】延利用人数（※別表）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼児	11	4	9	9	13	9	12	12	11	11	10	12	123
学齢児	39	36	47	32	27	36	36	39	36	28	36	35	427
成人	75	71	89	84	74	95	94	97	81	81	81	99	1021
合計	125	111	145	125	114	140	142	148	128	120	127	146	1571

【名称】 放課後等デイサービス「ちえりー」

【住所】 川崎市川崎区桜本1-8-6 【電話】 044-276-8082

【実施日時】 学齢児放課後～17:30（その後送り）

長期学校休業日 10～17:30

【定員】 10名

【管理者】 中根正一

【児童発達支援管理責任者】 斉藤ゆみ子

【スタッフ】 20名

【活動報告】 2017年度の卒業生（高等部）はなく、退会者もなかったために、新1年生の新規利用を取らずに現状維持とした（1名については、療育のために週1回利用を週2回利用に変更）。スタッフ体制を円滑に行うために、障がい児部門内で流動的な運用を積極的に行った（制度に適応する範囲内）。

【2017年度事業実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
放課後等デイ小中生	226	219	248	214	237	226	234	227	223	205	216	239

【名称】 共同生活援助 虹のホーム（定員3名 利用3名）

共同生活援助 第二虹のホーム（定員6名 利用6名）

【住所】 川崎区桜本2-45-1 【電話】 044-277-0223（虹のホーム） 044-266-3470（第二虹のホーム）

【管理者】 姜 玲玉

【サービス管理責任者】 川本創一

【スタッフ】 世話人6名 生活支援員13名

【活動報告】

◆利用者

虹のホーム（男性）：年間通して利用状況・入居メンバーに変動無し。

虹のホーム第二（女性）：新規利用者2年目、概ね順調。

◆スタッフ体制

世話人、支援員とも変動なし（時間帯等若干の変更）。

◆生活・環境

【行事】 利用者誕生会＝従来どおり月毎に開催。／日帰り旅行＝10/21(土)福祉バスで三浦半島（当日雨天のため、行先を水族館に変更）。

【防災・訓練】 当年度内開催無し。

◆通院同行

前年より回数は増加。男性：歯科定期通院、診察終了後送迎、ほか熱発時対応等。／女性：歯科、皮膚科、耳鼻科、眼科などの定期通院、他。

【利用状況】

◆開業日(宿泊曜日)＝通常月～金 ◆利用時間帯＝16:00～翌 10:00(土のみ～13:00)

◆要望に応じ土曜・日曜の宿泊有り(1 月以降、土日の定期利用有り)。 ◆公休＝12/29～1/3 年末年始。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
虹のホーム (定員3名)	開所日数	25	27	26	26	27	26	27	26	28	27	25	30
	利用日数	70	67	69	67	56	54	58	70	75	68	64	83
第二 虹のホーム (定員6名)	開所日数	25	27	26	26	27	26	31	30	29	26	24	27
	利用日数	134	137	140	135	131	128	150	139	136	128	125	143
合計 (のべ)※	開所日数	225	243	234	234	243	234	267	258	258	237	219	252
	利用日数	204	204	209	202	187	182	208	209	211	196	189	226
利用率		91%	84%	89%	86%	77%	78%	78%	81%	82%	83%	86%	90%

【名称】地域活動支援センター スペースほっと&ほっとカフェ

【場所】川崎区桜本1-8-10【電話】044-288-5141

川崎区桜本1-7-24【電話・FAX】044-276-8093

【管理者】村越俊之

【スタッフ】常勤2名 非常勤2名 スタッフ2名 サービス管理責任者1名

【障がい就労者】11名 2名(横浜市)

【活動内容】

作業内容	取引先
日替わり弁当作り	学校・地域・病院・施設・法人内
会議用弁当作り	得意先・法人
手作りおやつ提供	わくわくプラザ3校
グループホーム夕食提供	法人グループホーム
夕食用お弁当配達	地域
オリジナルスイーツ製造販売	保育園・地域
キムチ販売協力	地域
ひとかごグッズ販売	地域

4月	・法人歓送迎会参加 ・一日研修 横浜セルフ杜の会 ・まちなか絵画教室
5月	・レクレーション 東扇島 BBQ ・まちなか絵画教室
6月	・まちなか絵画教室 ・桜本中学職業体験実習生受け入れ
7月	・生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ主催 平和・国際フェスタ ハートカフェ2017出店参加 ・まちなか絵画教室
8月	・トラギ会盆踊り参加
9月	・まちなか絵画教室 ・田島支援学校実習生受け入れ
10月	・まちなか絵画教室 ・ハロウィンオリジナル商品販売
11月	・日本のまつり出店参加 ・レクレーション 油壺マリンパーク

12月	・クリスマス会参加 ・ほっとライン忘年会参加 ・地活忘年会
1月	・まちなか絵画教室
2月	・まちなか絵画教室 ・法人懇親会参加 ・スペース PAZ 出店
3月	・体験型研修&レクレーション 安藤百桃発明記念館

【活動報告】

スペースほっと&ほっとカフェでは、『働く場所』としてメンバー一人一人が働くことに対する意欲や自発的に仕事に向け合えるようサポートを行ってきた。個別対応を重視し、相談・面談などを重ね、相談支援や各部署、ご家庭との連携を密にし、メンタル面・健康面に焦点をあてながら、作業内容の工夫や見直しなど、特性にあわせた就労援助を目標としてきた。今年度新規利用者として2名が加わり、1名が川崎市から相模原市へと就労移行支援 就労継続 B 型事業所へ移行した。また関係機関と連携を図りながら、職業体験に3名が参加し継続的な取り組みとなっている。職種の違う体験を通して、自分の可能性や興味を引き出し、見えてくる世界を体感することができる貴重な経験である。短時間雇用の枠も視野に入れながら、地活と併せて働き場が広げられるよう積極的に取り組んでいきたい。また地活が職業体験の現場として田島や鶴見支援学校また地域の桜本中学の学生を受け入れている。2017年度は3つの地活で行政関係機関からの就労体験実習の受け入れを例年と同じく積極的に行った。また、働くという位置づけ以外にも3つの地域活動支援センターと連携協力し合いながら、余暇活動などの充実を図るなど。スタッフのスキルアップにむけての研修参加や、スタッフとメンバーと一緒に学ぶ外部研修なども定例となっている。余暇支援の一環として行われている『まちなか絵画教室』は講師の体調不良により縮小して行われた。講師が不在という状況が続いているが、お絵かきを楽しみにするメンバーがいることもあり、講師がいなくても自由楽しく絵を描くことを目的としながら、今後も継続して行う予定である。

【名称】地域活動支援センター ほっとカフェテリア パン工房

【場所】川崎区浜町1-9-14 アカツキビル1階

【電話】050-3399-5411 【FAX】044-333-8624

【管理者】豊田民珠

【スタッフ】常勤2名（1名育児休暇中）非常勤1名 パート支援員1名 事務専任パート1名
サービス管理責任者1名（兼任：お弁当工房）バックアップ＝金恵玉（マナ）

【障がい就労者】10名

【活動内容】

作業内容	取引先
訪問販売	桜本保育園・さくらっこ保育園 ふれあい館・わーくす大師・川崎南部療育センター・デイサービスはな
多文化ランチ	毎週金曜日 ペルーランチオープン
多文化食材販売	サリサリストア（フィリピン・ペルー食材販売）
店頭販売	店内・イベント用パン注文販売
4月	・法人歓送迎会参加 ・一日研修 横浜セルフ杜の会
5月	・レクレーション東扇島マリエンBBQ ・川崎信用金庫本店『ふれあい市場』パン販売参加
6月	・ふれあい館まつり パン販売
7月	・生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ主催 平和・国際フェスタ ハートカフェ2017出店参加 ・チネチッタパン販売
8月	・東山荘YMCA フィールドワーク パン販売 ・トラヂ盆踊り参加

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化家族遠足企画参加 フィールドアスレチック横浜 つくし野 ・ハロウィンオリジナル商品販売
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のまつり出店 ・レクレーション 油壺マリンパーク ・福祉まつり出店
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会参加 ・ほっとライン忘年会参加 ・地活忘年会
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・田島プラザ福祉まつり出店 ・多文化新年会企画参加
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・法人懇親会参加 ・スペース PAZ 出店
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型研修&レクレーション 安藤百桃発明記念館

【活動内容】

この間、課題にあがっている喫茶事業の展開は今年度もできなかった。常勤スタッフが育児休暇中に際し、毎週金曜日に行われる多文化ランチ（ペルーランチ）の人員不足の対策としてパートスタッフが加わったことと、パン工房のメンバーが状況を感じ取り、それぞれが積極的に自発的な関わりを行ったことで、多文化ランチが継続して行え、販売数を維持することができた。また支援員が不足という中において、安全に過ごすことを目標に業務を行ってきた。製パン事業においては、メンバーによる制パンづくりの作業分担が自主的に行えているが、更にスムーズに、安定的に関われるよう、体制づくりや工程の見直しなど、検討を重ねていきたい。また、イベント販売などの対面販売はメンバーにとっても力が発揮できる機会と捉え積極的に参加をしてきた。2017年度も、養護学校や南部就労支援センターとの連携による職業体験の場として実習生を積極的に受け入れてきた。それに伴い養護学校を卒業した新卒生がパン工房に繋がった。今後の課題としてパン工房の販売先拡大とメンバーだけによる製パンづくりと機器管理が行えるよう具体的な取り組みを提案したい。次年度に向けて日常現場で抱える困りごとや問題を事例として話し合う環境を整え、メンバーに対する理解を深めていく機会を増やしていくで、スタッフの対人援助技術向上を目指したい。

【名称】地域活動支援センター ほっとスペース マナ

【場所】 桜本1-9-9

【電話・FAX】 044-589-3108

【管理者】 金恵玉

【スタッフ】 常勤2名 非常勤スタッフ1名

【メンバー】 15名

【活動内容】

だれもがほっとできる居場所づくり。余暇を楽しむための支援やコミュニティーワークを通して人と繋がり生きる力や自信を回復していくことが出来る活動を目指す。

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・一日研修 横浜セルフ杜の会見学 ・地域 春のまつり参加 こども食堂チャリティー「フリーマーケット」 ・こども食堂開催
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・レクレーション東扇島マリエン BBQ ・川崎信用金庫本店『ふれあい市場』パン販売参加協力 ・ロータリークラブチャリティゴルフ『こども食堂基金呼びかけ』参加 千葉・木更津カントリークラブ ・こども食堂開催
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ主催 平和・国際フェスタ ハートカフェ2017パフォーマンス参加 ・ウリマダン合同料理会 ・こども食堂開催

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・トラヂ盆踊り参加 ・こども食堂開催
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・こども食堂開催 ・川崎市主催プロボノチャレンジ参加
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ストリートミュージアム『わが街 再発見!』 ・川崎市プロボノプロジェクト ・こども食堂開催
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のまつり出店 ・川崎市プロボノプロジェクト ・レクレーション 油壺マリンパーク ・ハルモニキムチ販売開始 ・ウリマダン合同料理会 ・こども食堂開催
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会参加 ・ほっとライン忘年会参加 ・地活忘年会参加 ・こども食堂開催
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウリマダン合同料理会 ・こども食堂開催
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・スペース PAZ 参加 ・こども食堂開催
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型研修&レクレーション 安藤百桃発明記念館 ・こども食堂開催

【活動報告】

2015年10月より『居場所づくりと社会参加』多様な文化背景をもつものにとっての居場所として開設されたほっとスペースマナは3年目を迎えた。現在は15名のメンバーが通所している。手帳の有無にかかわらず、支援が必要な方が利用することができるためこれまでサービスにつながっていなかった方にとっても『居場所』として利用して頂くことができている。今年は特に『高齢者の方への就労の場づくり』として、対象者を80歳以上の高齢の方とし、週1回のペースで行う手仕事を始めた。地域から請負の仕事をいただき2時間程度の作業を行っている。小さな集団を意識し、気兼ねなく時間を過ごすことができる居場所として現在4名の高齢者をお迎えして活動をしている。地域に開かれている場所としてマナがセンター的な役割機能として始めた【こども食堂】は、2016年8月をプレオープンとし、9月より3週間ごとの定期開催を継続して行っている。困難を抱える若者や障がいをもつメンバーたちがボランティアとして活躍しており、彼らが子どもたちを迎え入れる吸引力となっている。「一緒にごはんを食べようよ!」をモットーに始めた桜本こども食堂、現在はこどもが150名を超える状況となっており保護者も含むと200名規模となっている。ロコミが広がりママたちにとっても、安心してこどもを送りだせる場所となっていることが、こどもたちを安心させ、お友達を誘ってくる光景へと繋がっている。企業や市場から食材の定期提供や、地域からボランティア参加協力や法人内からも協力体制などがあり、理解が深まってきている。今後は、見えてくる課題にしっかり取り組みながら、近隣・地域と関係を構築する中、こども食堂を地域で支援する取り組みへと、共に生きる街づくりの可能性を模索していきたい。その他、桜本ハルモニキムチとし売り出したキムチ販売は好評を得た。ウリマダンとマナとの合同料理会も継続して行うことが出来た。余暇活動の取り組みとしては遠足企画イベント参加など、3つの地活と合同で行った。今後も社会参加に向けて一步を踏み出せる場所としてのマナの働きを広げていきたい。人と繋がることで得ることができる自信や安心感、自己肯定感など、コミュニティーワークを通して生まれてくる関わり合いを大切にしながら、支援体制の強化を図ること、CW、相談支援、関係機関地域とサポート体制を構築することで安定的な支援を目指す。また、地域と繋がり地域社会に参加していくことを目的とし地域に開かれたプログラム企画など3つの地活と協力しあいながら取り組んでいきたい。